

大気圧载荷工法

大気圧载荷工法は、盛土のかわりに大気圧を圧密荷重として利用する工法です。
大気圧の载荷は地盤表面を密封シートで被覆し、真空ポンプでシートと地盤の間に負圧を生じさせて行います。
負圧荷重は、通常50～80kN/m²程度です。

特長

盛土土砂の入手が困難な場合に適しています。

盛土を行わないため、地盤の滑り破壊が生じません。

施工手順

敷砂施工



パーバードレン打設



密封シートによる表層被覆



シート端部は
地盤内に挿入

負圧設備を敷砂層に接続



集気・集水

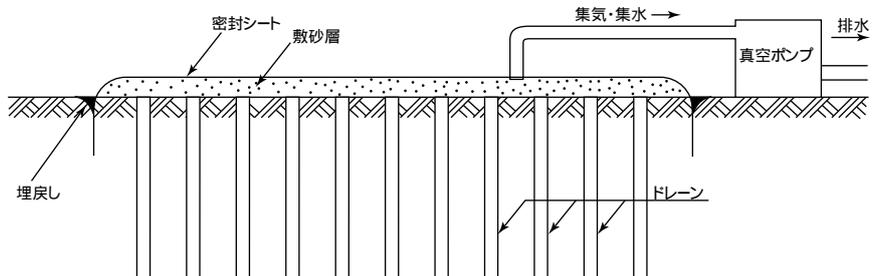


排水

施工機械



工法概要



施工実績

工事名	工期	施工場所	発注者	対象土	施工概要
中部電力武豊火力発電所 大気圧工法試験工事	64.10～65.1	愛知県	中部電力(株)	粘性土	パーバードレンピッチ:0.76m 改良面積:790m ²
東名高速焼津基礎 地盤安定工試験工事	66.3～66.8	静岡県	道路公団	腐植土 粘性土	パーバードレンピッチ:1.0m 改良面積:1,620m ²
オーストラリア館 移設地盤改良工事	71.8～72.2	三重県	公害防止事業団	埋立シルト層	パーバードレンピッチ:0.7m 改良面積:5,600m ²
市川流通加工基地 地盤改良工事	74.4～74.10	千葉県	日本鋼管(株)	埋立シルト層	パーバードレンピッチ:1.0m 改良面積:50,000m ²